

地球を 読む

選挙は民主主義政治を支える基本的な制度だが、民意がいつも素直に反映されるとは限らない。そもそもシリアやウクライナのように、内戦や分裂の状態にある国の民意とはいったい何かという問題もある。



山内 昌之

明治大特任教授

中東の大統領選

民主的手法 権威主義生む

選挙は民主主義政治を支える基本的な制度だが、民意がいつも素直に反映されるとは限らない。そもそもシリアやウクライナのように、内戦や分裂の状態にある国の民意とはいったい何かという問題もある。また、そこで実施される大統領選挙の正当性は、国際政治の力学とも無縁ではない。ロシアやイランは、シリアにおけるアサド大統領の選出を民意の反映と考

地球を 読む

1面の続き

山内昌之氏 1947年、札幌生まれ。カイロ大客員助教授、ハーバード大客員研究員、東大教授を歴任。東大名誉教授。最新著「中東国際関係史研究」(岩波書店)。

アラブの春見えぬ「幸福」

エジプトのモルシ前大統領とその支持母体のイスラム主義組織ムスリム同胞団は、昨年6月30日の「革命」で倒されるまで、「民主的」に選ばれた正統性を強調しながら、イスラム国家建設を可能にする「民主的」な憲法を作り上げようとした。しかし、そこには政教分離型の世俗主義派市民の権利や、コプトをはじめキリスト教徒の宗教的自由を尊重する寛容性が欠如していた。奇妙なのは、ムスリム同胞団が5月9日に出した「ブリュッセル文書」である。そこで同胞団は、オバマ米大統領やEUによる民主化へのこだわりを逆手に

英文はあすのジャパン・ニュースに掲載する予定です